

教育に関する抱負

2018 年 2 月 18 日 大友 章裕

1. 実績

- A) 2017 年度 大阪大学 大学授業開発論 I を受講。シラバス作成や模擬授業などを学習、体験した。
- B) 2017 年度 理学研究科 ティーチングフェロー。学部 2、3 年生の希望者を対象にした少人数制ゼミ（オーナーセミナー）にて、学生の自主研究をサポートした。
- C) 前職（日清食品ホールディングス株式会社）にて、研究所へ配属された中途・派遣社員への初期研修、実験指導等を担当した。

2. 教育に関する抱負

実験を通して、分子科学の原理原則を理解できる学生を育成する。科学技術の発展に伴い、実験機器の簡便化、簡易化が進んでいる。これらは実験にかかる時間を大幅に短縮する一方で、いわゆる装置のブラックボックス化という問題をもたらす。したがって、化学実験あるいは分子科学実験を通して、学生が普遍的な原理に基づく課題解決力を養うことを目指す。私は、大阪大学が開講する大学授業開発論を受講し、教育義務に関わる知識、様々な教育技法を習得した(1-A)。実験をただ指導書に沿って実施するだけでなく、どのような力を身に着ける必要があるのか、今後選択する専門分野にどう関与しているのかなど、そのメリットを逐一伝えることで、学生の学習意欲向上を促す。私は、食品メーカーの研究所勤務の経験があり(1-C)、大学で学ぶ科学についての知識・技術が一般社会にどう貢献しているのかを体験している。この経験に基づき、説得力のある指導を行うことができると思う。

学生の自主性を重んじ、卒業後も継続的に学習できる能力を培う。将来、自身の専門性を外部で発揮する人材になるためには、学生の間に携わる研究で学習を閉じずに、生涯学び続ける姿勢が重要である。そのためには、学生の興味・自主性を重要視し、そこから得たアイデアを研究テーマへ還元することで、研究が自分から発進したものだという意識を持ってもらう必要がある。特に理学研究科では、社会的な要請ではなく、自発的に想起される疑問を研究課題へと昇華させる力が求められる。そのため自らが疑問に思うことを提起し、その解決方策を考え、計画を立案・遂行し、世間に公表するまでの、研究の一連の流れを学生自身が体験することで、研究に限らず能力を発揮できる人材へと成長できると考える。私は、大阪大学理学研究科のティーチングフェローとして、有志の学部学生の自主研究をサポートし、彼らの持つ疑問を研究テーマへと発展させた経験がある(1-B)。この経験をもとに、学生の主体性を引き出し、研究テーマへ還元できるようマネジメントを行う。私自身が、民間の企業での就業経験があるため、将来、アカデミアを目指す学生だけでなく、企業で活躍したい学生への指導が可能であると思う。